

## 薬事情報センターに寄せられた県民・医療従事者からの相談事例 (2013年5月)

### 【適正使用】

Q：経口BP製剤を、服用後30分間起き上っているのはつらいので簡易懸濁法で投与した。メーカーは簡易懸濁法による投与は可能と回答。30分間起きていなくても大丈夫か？（薬局）

A：経口BP製剤は、30分以上の間、立位もしくは座位を保てない患者には禁忌。  
立位もしくは座位の時間は、本剤の滞留や本剤と胃酸の混合物が食道へ逆流する危険性を考慮して決められた時間なので、30分間は立位もしくは座位を保つ必要がある。また、本剤は刺激性があるため、簡易懸濁法で投与しても、口内や食道などへの影響も考慮する必要がある。

### 【相互作用防止】

Q：ジェイゾロフト™を2時間前に服用した。頭痛がするので一般用医薬品のアダムA（イブプロフェン配合）を飲んで良いか？（県民）

A：ジェイゾロフト™と一部の鎮痛薬との併用で、出血傾向が増強される可能性があるため、注意する。

Q：テグレート™を服用中の患者。グレープフルーツジュースを飲んでも良いか？（薬局）

A：代謝が抑制され血中濃度が上昇する恐れがある。投与時はグレープフルーツジュースを摂取しないようにする。

Q：リピート™を服用中の患者。併用注意にグレープフルーツジュースの記載があるが、生のグレープフルーツも注意が必要か？時間をあけたら食べても良いか？（薬局）

A：生のグレープフルーツでも代謝抑制の可能性はある。代謝抑制は、一般的に摂取後24時間程度に及び、数日程度持続することもあるため、注意が必要である。

### 【アドヒアランス向上】

Q：いろんな鎮痛剤で痛みが取れず、デュロテップ™MT 2.1mgが処方。吐気があり、痛みはあまり緩和しなかったが、4.2mgに増量し、痛みは改善、吐気もなくなった。知人は麻薬だからあまり使用しない方が良いと言うが、依存症にならないか？（県民）

A：医療用麻薬であり、痛みで使用する場合には、依存はほとんど起こらない。医師の指示通りに適正に使用すれば心配ない。

Q：インフルエンザ疑いで昨日レボフロキサシンとピーエイ™が処方された。今朝受診し、B型と判明。イナビル™とカロナール™が処方されたが、前日に抗生物質を飲んだのにイナビル™を使っても良いか？まだ吸入していない。(県民)

A：前日に抗生物質を服用していても問題ない。イナビル™はウイルスが増えた後に使用しても、十分な効果が期待できないので、できるだけ早く使用する。

#### 【副作用防止】

Q：メイラックス™を服用中。お酒を飲まないといけない行事があるが、飲んで良いか？(県民)

A：アルコールとの併用で作用が増強されることがあるので注意が必要。

Q：コデインリン酸塩は授乳婦に投与して大丈夫か？(医師)

A：母乳への移行により、乳児にモルヒネ中毒が生じたとの報告があり、授乳は避ける。

Q：1歳児にザジテン™が処方され、服用後、3日間夜眠れなくなっている。このまま服用を継続して良いか？(薬局)

A：ザジテン™は、脳内への移行率が高く、特に小児では興奮等の中枢刺激が現れやすい。副作用の可能性があるので、中止し主治医に報告する。

#### 【禁忌】

Q：ピリンアレルギーの患者にメルスモン™注を使用して良いか？(薬局)

A：本成分または他の薬物に対し過敏症の既往歴者は禁忌。アレルギー体質の患者は慎重投与。